第13回 仏教と写真のコラボレーション

ほとけの心フォトコンテスト

プリント部門では、仏の教えにちなんだ“31の文言”に合う写真を、ＷＥＢ部門では“手を合わせたくなる瞬間”をテーマにした作品を公募します。入選作品は、瑞厳寺・平等院・築地本願寺の三会場で展示され、国内外30万人以上の方々にご覧いただく予定です。また、入選作品を収録した写真集冊子（フォトブック）の製作も行います。

どなたでもご応募いただけます。皆さまの心に響く一枚をお待ちしております。【締め切り：2026年8月31日（月）必着】

【プリント部門（三十一文言）】

1 心を大空のように限りなく
2 海はいかなる川も拒まず
3 福の種を植える
4 一隅を照らす
5 すべてかりもの
6 荒々しいことばを言うな
7 水の上の文字は
流れて形にならない
8 さとりの花を摘み
道の果実を取る
9 刹那に生じ 刹那に滅す
10 平常心是道
11 いたるところに師あり
12 百歳の寿命も一日の生に及ばず
13 根深ければ枝しげし
14 欲の火を避ける
15 怒りに等しい罪悪はない
16 虚仮不実の我が身
17 泥中之蓮
18 散る桜 残る桜も 散る桜
19 怠けて眠りにふけらない
20 前後際断
21 近くして見難きは我が心
22 堅い岩は風に揺るがない
23 鳥のさえずりが教えを説く
24 一雨普潤
25 月は常に満ちている
26 雪中送炭
27 二つの偏りから離れる
28 氷多きに水多し
29 一塵のなかに
無量の諸仏まします
30 渇愛は煩悩が芽をふく湿地
31 心の凹凸を平らにする

募集要項の詳細・文言の意味・過去の入選作品は上記のQRコードからご覧ください

【ＷＥＢ部門（テーマ）】

手を合わせたくなる瞬間

私たちは、日々の暮らしの中でふと「手を合わせたくなる」瞬間に出会います。美しい自然、いのちの気配、誰かの思いやり―。仏教では、それらを「尊いと感じる心」として大切にしてきました。あなたが出会った、その一瞬を写真に込めてみませんか。

コピー可 応募票【プリント部門】 天↑

- ほとけの心フォトコンテスト -

ふりがな	
氏　名	年齢
住　所　〒	
電話番号	
文言の番号・テーマ　番	撮影場所（寺院名等）

当コンテストをどこでお知りになりましたか？
雑誌『フォトコン』・その他雑誌・学校・
寺院（　　）・協会HP・その他のサイト

・トリミング加工　あり・なし
・ご使用のカメラ（任意）：
・当協会からのご案内を希望される方は
公式ＬＩＮＥアカウントにご登録ください

仏教伝道協会
公式 LINE アカウント

プリント部門

仏の教えにちなんだ31の各文言に合う写真　※横位置カラー（5MB以上）／１人５点まで

【題材】自然風景、動・植物や花等のネイチャーフォト、工芸品等の静物、抽象写真　※人物不可、ドローン撮影不可、AI生成画像不可

【応募方法】送り先　〒108-0014 東京都港区芝4-3-14　公益財団法人 仏教伝道協会 フォトコンテスト係

・１人５点までご応募いただけます。５つの文言に対し１枚ずつ、１つの文言に対し５枚、どちらでも結構です。
※他のコンテストなどに応募中や応募予定である作品、または過去に入賞した作品は応募できません。
・キャビネサイズ（127mm×178mm/2Ｌ判に相当）にプリントしたものを封筒等に入れ、
郵便または宅配便にてお送りください。※応募締切：2026年８月31日（月）必着
※データ（メール、CD-R等）では受け付けていません。必ずプリントしてください。
※上記応募票に必要事項を記入の上、作品裏に天地が判るようテープ等で貼付しご応募ください。
応募票は当協会ホームページからもプリントできます。
・応募した写真が別の文言で入選する場合もございますので、予めご了承ください。
・応募作品の返却は致しません。審査後、当協会にて適切に処分致します。

【審査】当協会選考委員会にて選出。なお、審査や入賞などに関するお問い合わせにはお答えできません。
丸林正則氏(写真家)・杉全泰氏(写真家)・金子美智子氏(写真家)・楳村修治氏(写真家)

写真集冊子イメージ

WEB部門 新　**ＷＥＢ部門は協会HP（https://www.bdk.or.jp/photo_contest/2026_entry.html）よりご応募ください**

テーマ「手を合わせたくなる瞬間」　※Googleフォームより投稿（10MB以下）／１人１点まで

※人物不可、ドローン撮影不可、AI生成画像不可【スマートフォン等で撮影の写真は応募可】
※審査：当協会事務局によるデータチェックの後、上記の選考委員会にて選出。

スマホから直接応募の方はこちら➡

賞　金　総額38万円

【プリント部門】賞金1万円 ×31点 ※入選者のみに電話または郵送にてお知らせします
【ＷＥＢ部門】賞金1万円 ×1点　※入選者のみに当協会よりメールにて連絡いたします
他、「瑞厳寺賞」・「平等院賞」・「築地本願寺賞」（予定）：各賞1万円 ×3点
また写真展会場にてアンケートを実施し、「ＭＶＰ（Most Valuable Photo）」を選出：賞金3万円 ×1点
※入選発表コンテストの結果は、当協会のホームページ（2026年11月）に掲載します

※入選作品の著作権は撮影者に、版権は当協会に帰属します。当協会は入選作品を無償で使用する権利を有します。入選作品は主に以下の目的で使用します。当協会主催の「写真展」にて展示。その他新聞・雑誌広告、ポスターなどの印刷物、またホームページなどのwebコンテンツとしての二次利用など。また当協会の裁量で撮影者の氏名を表示したり、トリミング等の加工を行う場合があります。

【注意事項】個人・法人が所有・管理、あるいは権利を保有する被写体が含まれる場合、その被写体の権利所有者に承諾をいただいてください。他人の著作権、肖像権等を侵害するような行為が行われた場合、それに関するトラブルの責任は一切負いかねます。また、そのような作品の入選が判明した場合は、入選を取り消しさせていただく場合があります。また応募作品は応募者本人が撮影し、全ての著作権を有しているものに限ります。他人の名前を使用した場合は失格になります。入選・落選を問わず、取得した個人情報については、当コンテストの事業運営およびそれに関わる目的にのみ使用し、他の目的には使用致しません。公益財団法人仏教伝道協会の個人情報の取扱いに関する詳細については、当協会ホームページ「個人情報保護に関する基本方針」、「個人情報の利用目的」をご参照いただきますようお願い致します。

公益財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI
〒108-0014 東京都港区芝4-3-14
TEL:03-3455-5851　FAX:03-3798-2758
E-mail:bdk@bdk.or.jp
https://www.bdk.or.jp

文言の意味と出典

【プリント部門】

1：心を大空のように限りなく　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
人は、心を大地のように広く、大空のように限りなく、大河のように深く、なめした皮のように柔らかに養わなければならない。

2：海はいかなる川も拒まず　【出典】ことわざ
度量の広い人物が寛大なのをたとえたことば。

3：福の種を植える　【出典】『和英対照仏教聖典』仏教伝道協会
福の種をまく田地というべき供養の機会を見て信仰心が起き、もの惜しみの心を捨てて施したのである。まことの富とは財物ではなく、心である。

4：一隅を照らす　【出典】最澄『山家学生式』
直径一寸の宝玉が国の宝なのではない。一隅にあって照らしている人、それこそ国の宝なのである。

5：すべてかりもの　【出典】お寺の掲示板大賞（広島県・超覚寺）
「かりもの」とは「借り物」であり、「私のもの」という執着から離れるための法語と味わえます。しかし、「かりもの」を「仮（の）もの」と読むとどうでしょう。また違ったとらえ方ができそうな、そんな妙がある言葉です。

6：荒々しいことばを言うな　【出典】『法句経』
荒々しいことばを言うな。言われた人々は汝に言い返すであろう。怒りを含んだことばは苦痛である。報復が汝の身に至るであろう。

7：水の上の文字は流れて形にならない　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
水に書いた文字のような人とは、水の上に文字を書いても、流れて形にならないように、他人の悪口や不快なことばを聞いても、少しも心に跡を留めることもなく、温和な気の満ちている人のことをいう。

8：さとりの花を摘み　道の果実を取る　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
ともにわたしの教えを守り、ともに学び、ともに修め、励ましあって、道の楽しみをともにせよ。
つまらないことに心をつかい、無駄なことに時を費やさず、さとりの花を摘み、道の果実を取るがよい。

9：刹那に生じ 刹那に滅す　【出典】『雑阿含経』
一切行は無常であり、生滅の法である。生ずれば滅する。瞬間ごとに生滅を繰り返していること。一刹那の短時間の内に生滅のあること。
すなわち万物は刹那刹那に生じては滅し、滅しては生じて連続していることをいう。

10：平常心是道　【出典】無門慧開『無門関』
ふだんの気持ちがそのまま道だ、という意。

11：いたるところに師あり　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
心さえあれば、目の見るところ、耳の聞くところ、みなことごとく教えである。

12：百歳の寿命も一日の生に及ばず　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
たとえ百歳の寿命を得るも、無上の教えに会うことなくば、この教えに会いし人の、一日の生にも及ばず。

13：根深ければ枝しげし　【出典】日蓮『報恩抄』
樹木の根が土に深く根ざしていれば、それだけ枝も大きく繁る。

14：欲の火を避ける　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
さとりを得ようと思うものは、欲の火を避けなければならない。干し草を背に負う者が野火を見て避けるように、
さとりの道を求める者は、必ずこの欲の火から遠ざからなければならない。

15：怒りに等しい罪悪はない　【出典】『入菩提行論』
このあとに「忍耐に等しい修養はない。」と続く。怒りは「瞋恚」ともいわれる三毒のひとつ。身心を熱悩せしめ諸悪行を起こさせる。

16：虚仮不実の我が身　【出典】親鸞『正像末和讃』
浄土の真実の教えに帰依しているけれども、このわたしがまことの心をもつことなどあり得ない。
嘘いつわりばかりのわが身であり、清らかな心などあるはずもない。

17：泥中之蓮　【出典】ことわざ
蓮はきたない泥の中で清らかな花を開くところから、悪い境遇の中にあっても、なお清らかさを保つもののたとえ。
煩悩の汚れを脱して、清らかな自分を現わすもののたとえ。

18：散る桜　残る桜も　散る桜　【出典】名句（良寛）
江戸時代の曹洞宗の僧侶で、歌人でもあった良寛和尚の辞世の句と言われている歌です。意味は、「今どんなに美しく綺麗に咲いている桜でも
いつかは必ず散る。そのことを心得ておくこと。」というように受け取れます。

19：怠けて眠りにふけらない　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
出家者がしなければならないこととは何であるか。慚と愧をそなえ、身と口と意による三つの行為と生活を清め、よく五つの感官と意を守って、
享楽に心を奪われない。また、自分をたたえず、他人をそしらず、怠けて眠りにふけることがない。

20：前後際断　【出典】沢庵『不動智神妙録』
前（過去）と今、今と後（未来）の際を切り離して今を生きよ、という意味。

21：近くして見難きは我が心　【出典】空海『秘蔵宝鑰』
自分の心というものは最も身近にありながら、これほど捕らえ難いものはない。
これに対して自己の仏は微細にして、しかも世界のすみずみまで遍満しているものである。

22：堅い岩は風に揺るがない　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
堅い岩が風に揺るがないように、賢者はそしられてもほめられても心を動かさない。

23：鳥のさえずりが教えを説く　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
まことにこの国は、さとりの楽しみが満ちみち、花の光は智慧をたたえ、鳥のさえずりも教えを説く国である。
まことにすべての人びとが生まれようと願うべきところである。

24：一雨普潤　【出典】禅語
雨は、あらゆる草木を同じように潤してくれます。恵みの雨によってこそ、どんな草も木も育ってゆきます。
人は正しい教えを受けることによって成長してゆきます。良き教えを学んでゆきましょう。

25：月は常に満ちている　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
人びとは月が満ちるとか、月が欠けるとかいうけれども、月は常に満ちており、増すこともなく減ることもない。
仏もまたそのように、常にあって生滅しないのであるが、ただ人びとの見るところに従って生滅があるだけである。

26：雪中送炭　【出典】徳行『四字経』
緊急時に救いの手を差延べるたとえ。「雪中に炭を送る」と言う。「雪中の炭」は、緊急援助物資の意。

27：二つの偏りから離れる　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
道を修めるものとして、避けなければならない二つの偏った生活がある。その一は、欲に負けて、欲にふける卑しい生活であり、その二は、
いたずらに自分の心身を責めさいなむ苦行の生活である。この二つの偏った生活を離れて、心眼を開き、智慧を深め、さとりに導く中道の生活がある。

28：氷多きに水多し　【出典】親鸞『高僧和讃』
「罪や障（さわ）りは、そのまま功徳のもとになるのです。その関係は氷と水のようであり、氷が多ければ多いほど、溶けたときの水は
多くなります。同じように罪や障りが多ければ多いほど、後に得られる功徳も多いのです。」

29：一塵のなかに無量の諸仏ます　【出典】道元『正法眼蔵』
仏法普遍の真実は、一塵そのものに無辺の真実をみるのであり、一塵そのものに無量の真実に生きる仏のあることをみるのである。
さらには一草・一木も単なる草木ではなく、仏法なる真実の身心そのものにほかならないのである。

30：渇愛は煩悩が芽をふく湿地　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
渇愛は煩悩の王、さまざまな煩悩がこれにつき従う。渇愛は煩悩が芽をふく湿地、さまざまな煩悩を生じる。渇愛は善を食う悪鬼、あらゆる善を滅ぼす。

31：心の凹凸を平らにする　【出典】『仏教聖典』仏教伝道協会
だから正しい教えは、実にこの地上に、美しいまことの団体を作り出す根本の力であって、互いに見いだす光であるとともに、
人びとの心の凹凸を平らにして、和合させる力でもある。